

陸上競技場について

1. 「まんが スポーツで地域活性化」による事例紹介

スポーツ庁は、2020年そしてそれ以降も「スポーツによる地域活性化」を支える人材が輩出されるように、地域活性化の取組を全国から12事例選定し、“まんが”で紹介する事例集を制作しました。

その中から、サッカーやラグビーなど、町田市にも関わりがあると考えられる2事例について、一部ご紹介いたします。



スポーツで地域活性化シリーズマップ

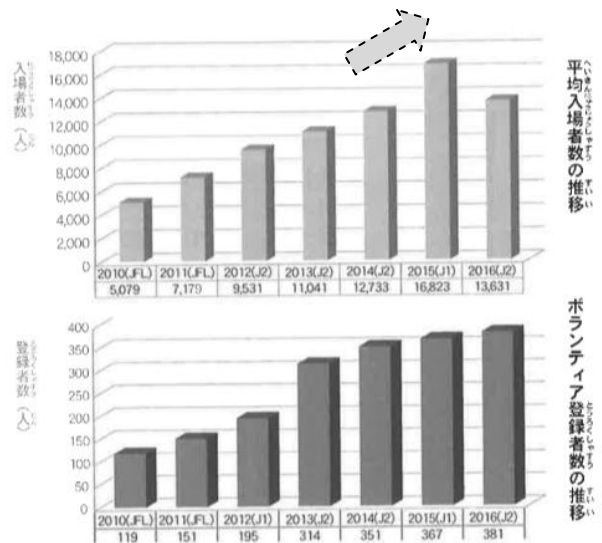
「vol.6 サッカーで地域を盛り上げる ～松本山雅FCの歩み～ 長野県松本市」

松本山雅 FC: 日本の長野県松本市、塩尻市、山形村、安曇野市、大町市、池田町をホームタウンとする、日本プロサッカーリーグに加盟するプロサッカークラブ。2017 年はJ2リーグを戦い、平均入場者ランキングは1位の名古屋に次いで2位となっている。本拠地は長野県松本平広域公園総合球技場。

(1) 松本山雅FC(Jリーグ)で盛り上がる市民

松本山雅FCのホームスタジアム「アルウィン」の収容人員は約二万人。山雅のシーズパスを持っている方が9,000人ほど。こうした地域の根強いファン層に支えられ、アルウィンの平均入場者数は2015年(J1)で16,823人、2016年(J2)で13,631人となっています。これは、松本という長野県の一地方を本拠とするチームとしては、極めて多いと言えます。

また松本山雅FCには試合運営に携わってくれる「TEAM VAMOS」というボランティア団体がいます。入場整理、チケットもぎり、グッズ販売等のピッチ外のような仕事を引き受けており、そのチーム員(ボランティア登録者)数は2016年で381人となっています。



(2) 松本山雅FC(Jリーグ)のホームタウン活動

松本山雅 FC はホームタウン六市町村(松本市、塩尻市、山形村、安曇野市、大田市、池田町)を中心に長野県の地域社会の一員としてスポーツを通して様々な活動を展開しています。

松本山雅 FC の活動を通じて、地域の人々に夢と感動を与えたい。多くの人々に笑顔の輪を広げて行きたい。男女問わず、子どもからお年寄りまで幅広い方から愛されるクラブになりたい。松本山雅 FC は「Smile Yamaga」を活動テーマに「カルチャー」「ライフ」「コミュニティ」を三本柱とする、ホームタウン活動を展開しています。



①山雅(田植え)



②健康増進プログラム



③園児への巡回指導

2. Jリーグ スタジアム検査要項[2017年度用](抜粋)

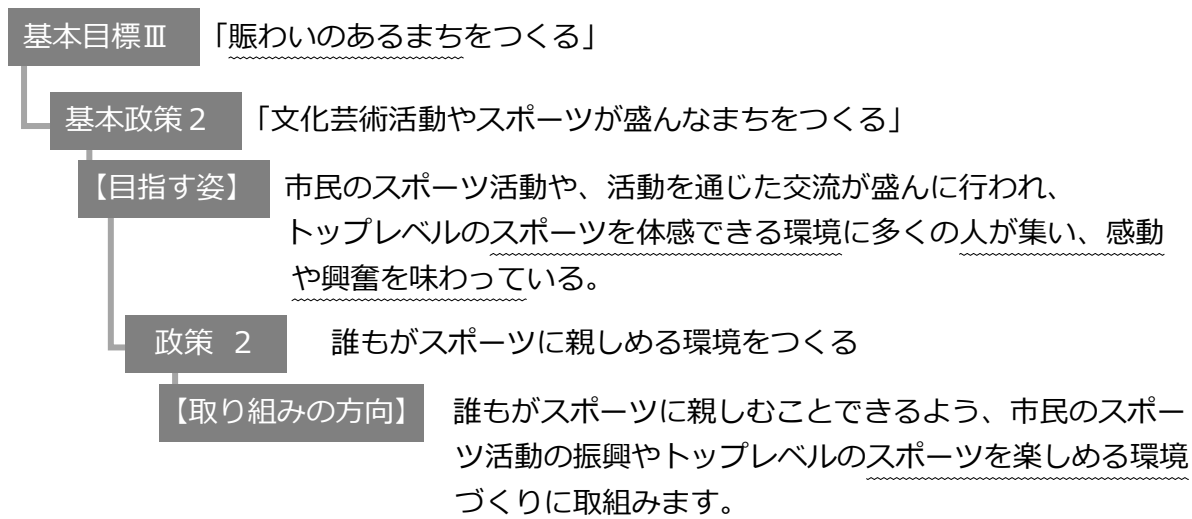
■検査項目

	必須とされる設備	内容	検査基準
スタジアム規模	1 入場可能数	J 1 は 15,000 人以上、 J 2 は 10,000 人以上	必ず具備
	2 座席 (1)観客席	椅子席で 10,000 席以上あること	必ず具備
		全席個席であること	具備が望ましい

3. 町田市の基本計画について

<p>町田市基本計画 まちだ未来づくりプラン 将来の町田市のあるべき姿を見据え2012年度から2021年度までの10年間に、何を目標に、どのようにまちづくりを進めていくのかを示す町田市の基本計画</p>	<p>町田市5カ年計画 17-21 「まちだ未来づくりプラン」で示した方向性を具体化するための実行計画(2017年度から2021年度までの5カ年計画)</p>
---	---

■スポーツに関連する施策の位置付け



町田市5カ年計画 17-21について

■政策2 誰もがスポーツに親しめる環境をつくる

施策2 トップレベルのスポーツを楽しめる環境づくりの推進

重点事業5 野津田公園スポーツの森の整備（基本計画体系Ⅲ-2-2-2）

事業概要	・自然の中で楽しむ総合スポーツパークを目指し、多目的グラウンドやテニスコートを拡張区域に新たに設けるとともに、幅広いスポーツやレクリエーションを楽しめるように公園全体を再整備します。 ・プロスポーツなどの大きなスポーツ大会に対応する競技環境と観戦設備を整備します。		
目 標	① 拡張区域整備 ② 大型映像装置整備 ③ 観客席増設	目標値	① 用地取得完了 ② 2017年度整備完了 ③ 2020年度整備完了

(参考) 整備スケジュール

年度	2017年度	2018年度	2019・2020年度
大型映像装置	整備工事		

4. 「FC町田ゼルビア」のJ1昇格による経済効果について

■経済効果 49億6,300万円/年

J1昇格により知名度・注目度が上昇したことで1試合あたり12,000人が来場し、ホームゲーム年間20試合を観戦したと想定。

	経済効果合計	内容
	49億6,300万円	
直接効果	30億5,200万円	観客の交通費、場内飲食費、場外消費、アウェイ側宿泊費、グッズ・チケット消費等
間接効果	19億1,100万円	産業連関表の大分類(37部門)を用い、直接効果の需要創出に必要な財・サービスの需要および雇用者所得から生じる消費需要を試算

5. 「交通対策等」の課題解決に向けた取り組みの内容

(1)課題の整理

当面の課題として、次への対応が必要と考えます。

- 限られた台数のバスを効果的に配車し輸送力を最大限に発揮すること
- 利用者がバスに乗降車する際の動作の効率化を図ること
- 試合以外にも楽しめる時間を提供し、帰る時間を分散させ、バス待ち時間を短縮すること

(2)今すぐに実施できる具体的な取り組みの実施

実施日:8月26日(土)開催 FC町田ゼルビアー松本山雅FC戦

①交通対策調査

- 複数のバス停での待ち人数及び待ち時間等の計測
- 競技場でのアンケート(居住地、アクセス手段等)

【結果】

- 観客総数:4,762人、アンケート回収:980枚
- 町田市内在住:40%、都内:10%、都外(周辺):13%
- バス:36%、自家用車34%、自転車・徒歩11%

②鶴川駅行き直行バスをはじめとした総合的な取り組み

○交通事業者、ゼルビア等と連携のうえ、総合的・一体的な取り組み

時点	取り組み内容・【結果】
行き	<p>①鶴川駅臨時バス乗り場での案内改善 案内人が誘導を徹底し、分かりやすい案内ができた。</p>
滞在中	<p>②体験型イベントなどの開催 試合前に芝生広場でサッカー教室を行い小学生以下40名が参加。</p>
	<p>③キッチンカー等の営業時間の延長 全16店舗が試合終了後30分営業を延長し、77人が利用した。</p>
帰り	<p>④鶴川駅行き直行バスの2台縦列待機 ・現在、直行バスは1台毎に観客を乗車させる方法だが、待ち時間短縮のため、バスベイにバスを2台縦列に停車させて、同時に乗車させる方法で運行を実施。 ・用意した10台のバスは、始発の21時00分から21時20分までに、5分間隔で全てが発車した。 ・21時00分に発車した始発が鶴川駅で乗客を降ろし、野津田公園に戻ってきたのは21時35分(周回時間約35分)。 ・以降戻ってきた直行バスに順次乗車し、計798名の乗車が完了したのは21時45分で、待ち時間は最大27分。 ・周回運行する直行バスに、途切れることなく乗客を乗せるためには、16台以上必要なことが判明。</p>
	<p>⑤鶴川駅行き直行バスへの乗車誘導、整列の工夫 案内人が、直行バス乗車前に2列約60名毎に整列させ、待機する2台の直行バスに誘導しました。</p>

(3) 今後の予定

今回の結果を基に、効果検証及び分析を行い、各交通手段の需要に応じた適切な対策等について検討してまいります。